

第 10 号

1990.HOYU

# 朋友



倭子



佼成看護専門学校同窓会

# 新会長として



## 浜田みどり

久しぶりに暑い夏を迎え、国内いたるところで水不足が言われ、殊更に身にしみたむし暑さの中、全国津々浦々から多数、御出席下さり誠にありがとうございました。

当日は中央大学助教授であり、我校の講師でもある岸信行先生の「赤とんぼ」の歌詞を通し、人間形成における故郷の機能について講演をいただきました。

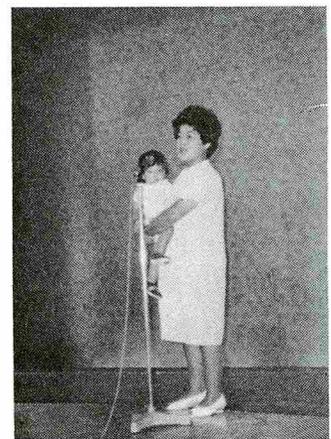
自己成長の糧が故郷であり、母校も故郷の機能を合せもつと話されましたが、人間形成における故郷である母校を礎に、同窓会もまた、厳しい現実を生きるエネルギーとなっていくことが理想であるように思われました。

さて、過去会長の重責をほとんどはたすことなく過ごしてまいり、心苦しいのですが再びの推選により弱輩ではありますが受けさせて頂くことになりました。47年に第一期生が卒業し、48年に同窓会が設けられ、6年前より組織的に活動されるに至りました。現在約一、〇〇〇名の会員を擁するまでになりました。

た。現在の活動以上に様々な活動への提案をお寄せ下さいます様お願い申し上げます。

また、近年看護婦不足が社会問題として大きく取り上げられ、各地で種々対策が講じられている様です。将来の高令時代を支える人支えられる力量のある人として、私達も看護の職場あるいは地域の中で、様々に勉強を重ねてゆきたく思っております。より一層の御指導、御支援をお願い申し上げます。

## 第七回同窓会開催



平成2年7月22日「中野サンプラザ」に、多勢集合しました。総会では、中谷さん、武田さんの司会で、活動や会計報告、新役員の決定その他問題について話し合い、その後岸先生の講演、全員での記念撮影、昼食をとりながらの懇親会。司会が加藤さん、河合さんに変わり、なつかしい三分間スピーチがありました。小野田先生は、南米旅行のこと、闘病生活で一番心強かったのは、卒業生の看護と励ましであったこと、渡辺先生の力強い歌声で「知床旅情」や、磯さんの武田節を聞き、山崎先生、島さん、新井さん、山岸さんの同窓会を發達させるための思い、なつかしい学校の思い出話など、同じ看護の仲間としてこの場に集えた喜びの声などが聞かれました。年月は過ぎてても、会えば学生時代にタイムスリップし、話もはずみ、あっとい間に別れの時間となり、再会を約束し合い、無事、同窓会を終了しました。



第7回佼成看護専門学校同窓会 平成2年7月22日 於 中野サンプラザ



## 同窓会に参加して



加藤直美

今回私は初めて同窓会に出席しました。卒業して早七年が過ぎ、数少なくなった同期と共に中堅として毎日がんばっています。そんな中での今回の同窓会は司会も任せられていたこともあり、期待と不安の思いでした。

しかしいざ会が始まると皆一つになり、出席者も徐々に増え何事もなく終了しました。

なつかしい顔、諸先生、大先輩たちの中で学生時代の思いとはまた違った印象があり、お世話になった先生たちと学生の時とは違った感じで話ができること、先生と生徒ではあっても同じ学院を卒業した者同志といった具合になり仲むつまじく話せることはやはり同窓会しかないのではないのでしょうか。

皆が学院の卒業生であるということに誇りを持つと同時に自分が忘れられないようにとはるばる遠くからも出席してくれるこの同窓会はとても大きな意味を持っている会だと思っています。これからも出席者がどんどん増えていくような同窓会を期待したいと思います。

## 記念講演

「人を育てる」

〈ふるさと〉の教育的機能

童謡「赤蜻蛉」の

意味するもの

岸 信行



「赤蜻蛉」は、日本人が極めて好む歌です。「日本の歌、ふるさとの歌」全国アンケートでも一位となっています。この歌が好まれる理由は、その中に歌われる△ふるさと▽に、強く魅かれるものがあるからでしょう。

では、その△ふるさと▽には、どのような意味があるのでしょうか。まずは、この歌詞を分析してみましょう。

歌詞の一番では「ネエヤの背中」がなんともいえない△ふるさと▽の象徴のように感じられます。

二番では、幼少に登った山の畑のことが、あたかも幻のように脳裏をよぎり、ほんとうに、自分は、あの△ふるさと▽に居たことがあるのだろうか？と回想しています。

三番に、△ふるさと▽を喪失してしまった、やりきれない感情が、さりげなく、しかし、恐ろしほどの鮮烈さで詠まれている。自分にはもう△ふるさと▽はない、幼き日に私を背負ってくれたネエヤは、十五で嫁に行き、たった一人、△ふるさと▽のことを知らせてくれる可能性をもった「あの人」も今では△ふるさと▽には居ない。あの夕焼け空の赤トンボは今でも飛んでいるのだろうか。それは、知る由もない。と。

四番で作者が今、目の前にとまっている赤トンボを見て、△ふるさと▽を強烈に思っ

ていることが分かります。竿の先にとまっていた一匹の赤トンボが、ふるさとにいない作者を、しばし、△ふるさと▽への追憶の旅に誘ったのです。

△ふるさと▽を思いながら、その△ふるさと▽の便りが絶え果てているという一種矛盾的な心情を味わう時、そこに強烈に自己をつき動かす何かを日本人は感じるのではないのでしょうか。△ふるさと▽への哀愁と風土への愛着は、日本人の奥深いところでその心を支え、生きる重要なエネルギーを生み出させているのでしょうか。

あまりにも現実的な事柄は、精神の模範にはなりにくい。人間に生きるエネルギーを与えるものは、現実から隔たった世界です。「心のふるさと」それは精神の理想郷です。△ふるさと▽からの便りが無くなったことを感じ、それに哀愁を感じる時、また、ふるさとを遠くにあつて思うとき、また、失った△ふるさと▽を思うとき、その思いが人間に生きるエネルギーを与えてくれるのです。すなわち自己を育んだ△ふるさと▽は、理想化されて人間に現れ、現実を生きるエネルギーを生み出させるのです。

△ふるさと▽では、人間と自然とがふれ合い、自然と密接に関係をもちながら、人間の美しい自然が成長していく。大自然・風土が

人間存在に果たす役割は、はなはだ大きいのです。

今、△ふるさと▽を描き続けている画家が注目され、また、民族は違うものの、南米の△ふるさと▽の歌Ⅱ「コンドルは飛んで行く」に代表される、フォルクローレⅡが親しまれています。それは、赤蜻蛉に歌われたと同様な△ふるさと▽への熱い思いを、人間を作り育みやさしく包み込む△ふるさと▽の大自然を感じているからではないでしょうか。

西條八十が作詞した「かなりや」という詞があります。唄を忘れた金糸雀に唄を思い出させるのに「後ろの山に棄てて」も「背戸の小藪に埋けても」いけない、「柳の鞭でぶつのもかわいそうだ」と歌い、「象牙の舟に銀の権月夜の海に浮かべる」のがよいのだと歌っています。すばらしい教育的な見方だと思えます。唄（本質）を忘れた金糸雀（存在）に対して、残酷な罰より、環境を整え、大自然のおおらかさの中でやさしくしてやることの方が大切なのだと思われているのです。その「月夜の海」は、金糸雀をやさしく包み込み、その本質を再び呼び戻す役目を果たします。それは、△ふるさと▽の持つ意味を象徴しているようにも思えます。

我々は、もう一度、自己を育んでくれた周囲のものを謙虚に見つめ、それらの意義を考

## 同窓生だより



Ⅱ科7期

田地野光江

えて見る必要があるのではないのでしょうか。その時、自己を過去あるいは、現在において支えてくれているものに気づき、謙虚になりまた、自己成長を遂げさせてくれた様々な要素に対して、素朴な愛と感謝が湧き起こってくるはずです。そして、その愛と感謝が、自己を取り巻く総てのものが、自己を支える「心のふるさと」となり得る可能性をもつことに気づかせてくれるでしょう。

「心のふるさと」は、一つではないのです。自分が通り過ぎてきた過去の、そこかしこに散らばっているのです。母校も同じです。私にはあそこで学んだのだと思うことが誇りとなり、愛情になり、そこで学んでいる後輩達への思いになり、愛校心が強まるのではないのでしょうか。そういった思いが、このような同窓会に集まり、古い話に華を咲かせ、明日へのエネルギーを自分の内側から創り出していく姿勢を生み出すのです。すばらしいことではありませんか。

今後も、佼成看護専門学校の卒業生の皆さんが、懐しく思い出せるすばらしい学校であり続けることが出来ると信じております。私も、その一端でも担えれば幸いと存じます。

同窓生の皆さん、お元気ですか。

仕事に、育事に、家事にと頑張っている事と  
思います。

私は、結婚と同時に家庭に入り、家事に専念していました。しかし主婦業だけですと、仕事をしている友人や、社会から取り残されていくような焦りから、7年のブランクがありました。都立病院に勤めました。しかし自分の考えていた看護と、現実のギャップに疲れ、3年間で退職しましたが、とても勉強になった3年間でした。

現在は専業主婦ですが、7年前より始めた染織をライフワークとして、マイペースで、作品を作っています。年1回のグループ展も今年で4回目です。10年目には、個展を開けたらと、夢見ています。

職場に、家庭に活躍の皆さん、どうぞ体を大切に、自己啓発に励んで下さい。

平成元年度

## 同窓会活動報告

- 4月 21期生入学式 会長祝詞 花束贈呈  
同窓会説明会(役員)
  - 5月 定例役員会(同窓会 顔合せ 他)
  - 11月 定例役員会(朋友発行 同窓会計画)  
21期生戴帽式 副会長祝詞 花束贈呈
  - 3月 19期生卒業式 会長祝詞 花束贈呈
- ※ 同窓会参加者に写真を送付しました。

## 学校事務局より

証明書が必要なときは、証明書交付申請書(用紙は事務室に備付)を提出していただくことになっております。遠隔地からの申込みの場合は、返信用封筒に切手の貼付、住所、氏名、郵便番号を記入して同封し、必要事項を手紙に書いてお申し込み下さい。成績証明書については、書留にて提出先へ郵送しますので、提出先の所在地、名称を記入の上、お申し込みください。ただし、学校受験に限り本人宛に渡します。

手数料はつぎの通りです。

卒業証明書 一通につき 二〇〇円  
成績証明書 一通につき 五〇〇円

一通につき 四二二円

送り先 〒166東京都杉並区和田一ノ三ノ十四

佼成看護専門学校事務係

電話(03)三八四一六一

# 19期生の紹介



早いもので私達19期生が卒業してから6ヶ月がたちました。学生時代の19期生は、とにかく「明るく元気」という言葉がぴったりのクラスでした。3年間の行事も一つ一つ真剣に取り組み、終わった時のあのすがすがしい気持は今でも忘れません。

修学旅行も北海道をまわってきました。美味しい食べ物と広大な自然に何とも言い現せない感動を覚えました。とても有意義な6日間でした。

こんな19期生は先生方をはらはらさせる時期がありました。国家試験を目前に勉強が手につかない私達に何度も模試をしてくださったり、ご指導をして頂きました。

そのおかげで、皆無事に国試をパスする事が出来、現在、佼成病院をはじめ各地の病院でがんばっています。まだまだ力不足で一人前になるまで気が遠くなる思いますが、どうかよろしくお願ひ致します。

館野 知津子

## 第19回 記念歌

作詞 安永 真実  
作曲 佐藤 理佳

一、希望に満ちた 我らの瞳

真実まことの道を 歩みゆく

尊い命の 燈 あつく

白衣に誓う 看りまとの心

二、輝く未来に心を託し

天使の道を 歩みゆく

篤あつき心に 手をたずさえて

永遠に誓う 慈悲の心

平成元年度収支決算報告書 (H.1.4~H.2.3)

収入の部		支出の部	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
前年度繰越金	2,083,913	経費	207,086
同窓会費	576,660	通信費	112,994
19期生卒業時	88,000	印刷代	60,000
21期生入学時	90,000	慶弔見舞金	15,000
O B	398,660	委員会運営費	10,660
預金利息	2,199	御礼・御歳暮	3,000
		雑費	432
		事務処理バイト	5,000
		次期繰越金	2,455,686
		銀行預金	1,253,152
		郵便預金	1,164,120
		現金手持高	38,414
合計	2,662,772	合計	2,662,772

会計(郵便口座振替)も会員の皆様の御協力の御陰をもちまして、順調に御入金頂きありがとうございます。その積立金の一部を今年度は同窓会総会開催の為の資金とさせて頂きました。今後でもできる限り会員の皆様に還元できる会費の使い方をさせて頂く様、努力して参りたいと考えております。

つきましては、今回も「払込通知票」を同封しましたので、記載されている金額を、お近くの郵便局に御支払い下さる様、お願い致します。また、住所変更、改姓などがございましたら、通信欄に御記入下さる様、重ねてお願い致します。

# 同窓会会計報告

# 役員名簿

- 会長 (I-1) 浜田みどり(山下)  
 副会長 (I-1) 鳥海優子(小野)  
 書記 (I-15) 河合貴美代  
 会計 (I-18) 高橋晴美  
 監査 (I-18) 遠藤裕子(南野)  
 (I-12) 松崎美香(松田)  
 (I-5) 小林ひろこ  
 (II-6) 稲垣由美子(鷺尾)
- クラス委員 (クラス委員はクラス毎に決めています)

II 科	I 科
19期生 館野知津子 服部美千代	1期生 細谷恵美子(神田) 今西潤子(日浦)
18期生 高橋晴美 村上直美	2期生 篠原夏子(小沢) 荻原実千代(川上)
17期生 金子みどり 三浦清美	3期生 齊藤真理子(鶴園) 齊藤陽子
16期生 菊地悦子(染谷) 大島由里	4期生 遠藤裕子(南野) 塚田陽子(須藤)
15期生 河合貴美代 近藤貴美	5期生 瀬戸口恭子(神沢) 田村嘉子
14期生 牧野学美 中村まゆみ	6期生 山田郁代(松岡) 日比昌子(関)
13期生 斉藤幸美 与那覇由美(軽部)	7期生 小島啓子 広門三千子(高倉)
12期生 金子みどり 三浦清美	8期生 齊藤悦子(小長谷) 荻葉隆世(坂口)
11期生 石井真弓 堀越佳子	9期生 大竹葉子 湯本宏千代
10期生 古屋節子(小野) 岸川園子(大塚)	
9期生 大石恵美 大矢和子	
8期生 朝妻晴美 山口悦子	
7期生 大石恵美 大矢和子	
6期生 稲垣由美子(鷺尾) 長壁きみえ	
5期生 川澄弘子 小林ひろ子	
4期生 村田みち子(柳沼) 西川加代子	
3期生 香水好江 大塚早智子(遠藤)	
2期生 矢部美智子 島みどり(刈田)	
1期生 小見道子(近藤) 中山絹枝(山本)	

## 編集後記

同窓会誌「朋友」第10号を、皆様方の御協力により、無事完成することができました。

第七回同窓会は、先生方、同窓生の方々が多数参加し、盛大に挙行されました。その時の写真や特別講演を中心に編集しました。特別講演の「人を育てる」は、岸信行先生を講師に迎え、私たちにわかりやすく、お話をしていただきました。

これからの仕事や、子育てにとっても役立つお話でした。同窓会に出席した方、出席できなかった方も御一読下さい。きっと学生時代を思い出すはずです。

次回「朋友」も楽しみにして下さい。

一科七期生 広門三千子

〔同窓会事務局〕

〒166 東京都杉並区和田一―三―十四

佼成看護専門学校同窓会事務局